

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 17 日現在

機関番号：34304

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820062

研究課題名(和文) エドガー・アラン・ポーのメスメリズムへの関心とその創作論との関係

研究課題名(英文) The relationship between Edgar Allan Poe's interests in mesmerism and his idea of creation

研究代表者

宮澤 直美 (MIYAZAWA, Naomi)

京都産業大学・外国語学部・助教

研究者番号：50633286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円、(間接経費) 540,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は19世紀中葉のアメリカ人作家・詩人エドガー・アラン・ポーを扱った。ポー作品の詳細な分析に加え、メスメリズム(動物磁気学)に関する19世紀の新聞や雑誌記事などを収集、解読し、同時代の文化的言説を検証した上で、擬似科学の流行がポーの創作論に与えた影響を調査した。その結果、直接メスメリズムに言及している作品のみならず、「アッシャー家の崩壊」をはじめとするその他の数々の作品及び、彼の創作論自体にも、メスメリズムの言説が潜んでおり、擬似科学が大きな影響を及ぼしていることが具体的に明らかになった。また、米国での貴重資料の発掘とその後の解読からは、今後の研究にも発展しうる大きな成果を得た。

研究成果の概要(英文)：This research focused on nineteenth century American writer and poet, Edgar Allan Poe. It investigated the relationship between Poe's interests in mesmerism (animal magnetism) and his idea of creation, through close analysis of Poe's literary texts as well as nineteenth century magazines and newspaper articles related to the cultural discourse of mesmerism. As a result, this study revealed that Poe's interests in mesmerism deeply affected to his literary creation. Besides his several short stories which directly refer to mesmerism, this pseudoscience played an important role in his idea of creation and some works such as "The Fall of the House of Usher," which never mentioned mesmerism. In addition, my research trip to the US. provided me a great opportunity not only to read rare resources but also to find new research idea which can be developed into next project.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：エドガー・アラン・ポー 19世紀アメリカ文学 メスメリズム 擬似科学

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 擬似科学と 19 世紀中葉のアメリカ作家についての先駆的研究者 David S. Reynolds の *Beneath the American Renaissance* (1988) を筆頭に、エドガー・アラン・ポー (Edgar Allan Poe) の作品を、電信とメスメリズムの観点から論じた Adam Frank の研究や、Klaus Benesch の *Romantic Cyborgs: Authorship and Technology in the American Renaissance* (2002) などが、科学言説と文学の橋渡しを推し進めてきた。国内では巽孝之氏、高山宏氏がポーの大衆文化や科学への関心に早くから注目し高い研究成果をあげてきた。

(2) これらの先行研究を踏まえ、博士論文 *Edgar Allan Poe and Popular Culture in the Age of Journalism: Balloon Hoaxes, Mesmerism, and Phrenology* では、熱気球、メスメリズム、骨相学、人工の体 (義肢) などの流行が、SF や探偵小説といった新しい文学ジャンルの創造にどのような影響を与えたのか明らかにしようと試みた。

しかし、その過程で、研究の出発点として依拠していた Reynolds の定説の限界が見えてきたのも事実であった。Reynolds は、科学的言説の導入が合理的な視点を作品に誕生させたという非常に説得力のある解釈を提示し、以後の定説を築いた。けれども、博士論文執筆の過程で、当時の新聞や雑誌を収集し、擬似科学の当世的な意味合いや役割を再評価したうえで、作品を精読したときに浮上してきたのは、擬似科学を脱構築してしまうとするポーの態度であった。それによって作品は再び魔術的な世界へと回帰していくように思われた。ポーの擬似科学の使用は、必ずしも合理的な視点を作品にもたらしているわけではないという新たな視点が開けてきたのだ。

## 2. 研究の目的

上のような観点から、本研究は 19 世紀中葉のアメリカにおけるメスメリズムや骨相学などの擬似科学の流行が、エドガー・アラン・ポーの文学作品及び、創作論に与えた影響を再考察し、Reynolds を先駆者とするこれまでの研究を発展的に乗り越えることを目指した。文学作品のみならず、当時の雑誌、新聞記事などを丹念に解析する作業を通じて、文学と科学の境界を越え、その時代の言説を縦断的に捉える近年の研究動向をさらに推し進め、エドガー・アラン・ポー研究に新たな視点を確立することが研究の目的である。

## 3. 研究の方法

ポーを取り巻く擬似科学の実態を調査するためには、文学作品だけを研究対象とするのでは不十分であるため、アメリカでの資料調査を行った。新聞、パンフレット、雑誌な

どを収集し、当時の文化的言説を検証し、包括的な理解を進める必要があったのだ。資料調査と分析によって得た結果を踏まえ、当時の文化的言説とポー作品を比較検証し、作品解釈に繋げていくという方法を採用した。

その後、散文作品だけでなく、詩、エッセイ、評論、書簡を含めて広く検証し、ポーの創作観の形成にメスメリズムがどのように関わったのかを明らかにした。その上で、擬似科学そして、科学技術の言説が客観的、合理的な視点を作品に導入しているとする従来の研究を再検証し、科学、擬似科学の使用は、ゴシックやロマン主義といった非合理の世界へと作品が回帰してゆく要因のひとつになっている可能性を探った。

## 4. 研究成果

(1) 一年目は、まずポーの短編に焦点を当てた。海外の所蔵資料を含めた資料収集と分析、メスメリズムを扱った三作品の検証を主に行った。特に“A Tale of the Ragged Mountains”におけるメスメリズムの影響について再検証し、作品の中でメスメリズムが人の「複製」を作り出す点に注目した。読者としてのポーが、作品に魅了された状態をメスメリズム的な睡眠状態に掛かったようだと捉えて、盗作行為を正当化している点を鑑みるならば、“A Tale of the Ragged Mountains”は、作品の「複製」を作り出すポーの創作論自体を物語化していると分析できる。

さらに、「複製」という言葉をキーワードに研究を進め、ポーのナサニエル・ホーソン批評の中で論じられる盗作に関する記述を検証し、それらを総合して分析し、平成 24 年 10 月の日本アメリカ文学会全国大会で発表した。盗作を審美的な精神の一致だとして正当化するポーの創作論の背後に、メスメリズムの言説が潜んでいたことを明らかにできたのは、重要な成果である。

(2) 冬期休暇を利用して、ニューヨーク公共図書館 (New York Public Library, Stephen A. Schwarzman Building) 所蔵の貴重書や電子データベースから、メスメリズムに関して重点的に資料調査し、一次資料を収集分析した。

メスメリズムに関してどのような言説がポーを取り巻いていたのかを探り資料を収集することができた。また、イェール大学図書館では、ポーやホーソンの資料に加え、当時の銀板写真の多くやガートルード・スタイン資料などに触れることができ、今後研究の幅を広げていくための貴重な機会ともなった。

(3) 二年目は、研究対象を広げ、短編のみならず、詩、詩論、批評すべてを含んだ包括的な理解へと進展させていった。その成果を踏まえて、メスメリズムと骨相学、すでに研

究を進めてある熱気球、義足や義肢のテーマなどと総合し、擬似科学が合理的な視点を提供しているという Reynolds の説を再定義する、という最終課題へと進んでいった。

その成果の一つが、関西アメリカ文学会『関西アメリカ文学』に掲載された“The ‘Rational Irrationalism’ in Poe’s Detective Stories: Reynolds, Dupin, and the Ourang-Outang”である。この論文では、ポーの骨相学への態度を再考し、Reynoldsとは異なった視点で骨相学を捉える読み方を提示した。Reynolds はポーの骨相学の利用は当時流行していた煽情主義に対抗し、合理的な理性をもつ探偵デュパンを誕生させることで、血生臭い殺人シーンを知性によって解決する探偵小説という新ジャンルを生み出したのだと論じた。これは、科学的な言説の導入が合理的な視点を作品に誕生させたという非常に説得力のある解釈であり、以後の定説となった。

けれども、ポーの骨相学への言及を探偵小説以外にも広げ「黒猫」や「天の邪鬼」などに登場する perversiveness という単語の使い方などから考察し、当時の新聞や雑誌を収集し、擬似科学の当世的な意味合いや役割を再評価したうえで再考すると、ポーは骨相学を最終的には脱構築しており、作品自体は非合理の世界観を強めるという傾向があるように思える。

合理的な科学的言説を引くことによって、不可解な殺人を合理的な科学的な精密さで解決する反面で、その合理性が逆に照査するのは、科学的な計算式で解くことのできない非合理的な人間心理の深淵であるというポー文学の世界を見ることができるとは思えないかと考えた。

(4) 平成 25 年 9 月に行われた第 6 回日本ポー学会年次大会シンポジウム『ポーとメルヴィル複製と変奏』では、同時代作家メルヴィルとの比較を試み、両者の作品における詐欺師に注目し発表した。より大きい視野で同時代作家と大衆文化との関連性をとらえるよい機会となり、今後の研究に大いに生かされる発表となった。

(5) ポーと擬似科学の関連性を調査する過程で、当時流行した銀板写真に対するポーの関心が、擬似科学に対するものと極めて近いところに存在することが分かった。この点をさらに検証すべく、ポーの銀板写真への関心を複製やダブルといった文学的テーマと関連づけて、平成 26 年 7 月、関西アメリカ文学会例会で発表する計画である。銀板写真に関しては、ポーのみならず同時代のホーソンやメルヴィルら文学者がそれぞれ異なった態度を示していることも興味深い点である。19 世紀中葉のアメリカ文学と銀板写真の関連性をさらに突きつめるべく、新たな科研費の研究テーマとして設定した。

このように、擬似科学とポーの関係を研究する本課題は、さらに多くの 19 世紀中葉の作家を取り込んだより包括的な研究へと発展する糸口を与えてくれたという点においても、大きな成果をもたらした。また、平成 27 年度 1 月にバンクーバーで行われる MLA(Modern Language Association)でセッションを立ち上げるべく応募中である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

Naomi Miyazawa

“The ‘Rational Irrationalism’ in Poe’s Detective Stories: Reynolds, Dupin, and the Ourang-Outang.”  
関西アメリカ文学 査読有り 50 (2013) 5-20.

宮澤直美

「ことばの台所」で Gertrude Stein の反復と公正さの概念」  
京都産業大学論集 人文科学系列  
第 46 号 査読有り 2013 年 3 月  
113 - 126.  
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009574033>

Naomi Miyazawa

“The ‘Musical Mesmerism’ in the House of Poe”  
日本アメリカ文学会  
*The Journal of the American Literature Society of Japan*  
査読有り No11 (2012) 1-21.  
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009631698>

Naomi Miyazawa

“Cyborg and Self-destructive Desire: Edgar Allan Poe’s ‘The Psyche Zenobia’ and ‘The Man that was Used Up’”  
『津田塾大学 言語文化研究所報』  
査読なし 第 27 号 (2012) 53-60.

[学会発表](計 3 件)

宮澤直美

『ポーとメルヴィル複製と変奏』「ポーとメルヴィルにおける詐欺師たち」  
第 6 回日本ポー学会年次大会シンポジウム  
2013 年 9 月 14 日  
立正大学大崎キャンパス

宮澤直美

「マンハッタン地図で読むポーの探偵小説」  
京都産業大学英語教育研究会  
平成 25 年度公開講座

2013年8月31日  
京都産業大学むすびわざ館

宮澤直美

「Dr. Templeton のヒル “A Tale of  
the Ragged Mountains” とメスメリス  
ム」

日本アメリカ文学会 第51回

2012年10月13日、14日

名古屋大学

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

宮澤 直美 (MIYAZAWA, Naomi )  
京都産業大学・外国語学部・助教  
研究者番号：50633286